

令和5年度 第4学年 授業改善推進プラン

昭島市立拝島第二小学校

	指導の実態及び課題	具体的な授業改善策
国語	<p>○物語文で、登場人物の心情や場面を捉える際には、記述を根拠にして適切に説明できる児童がまだ少ない。</p> <p>○本校の昨年度の学力調査では、説明的文章に課題が見られた。（『説明的な文章を読んで文章全体の構成を考え、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、目的に応じて中心となる語や文を読み取ったりして、要約することができる』の正答率33.3%）ただ、4学年は「10チャレ」（速読・速記）の効果もあり、説明的文章に対して、苦手意識を感じている児童が減るとともに、要旨を捉える力が付いた。一方で、未だに重要な内容を捉えることを苦手とする児童もいる。</p> <p>○漢字テストで高得点を取れている児童も、ノートをやプリントでは、既習の漢字を使わずに平仮名で書いていることも多く、漢字が身に付いているとは言えないことが課題である。</p> <p>○3年の3学期に行った標準学力調査では、学力の2極化（正答率70～80%を谷として、70%未満が約41.3%、80%以上が49.5%）が見られた。特に、点数が低かった児童は、条件に応じて内容の中心を明確にし、自分の考えを書く力について大きく点数を落としていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の学習のプロセス(①文章構造の理解と内容の把握②精査・解釈③考えの形成④共有)を踏んで指導することで、読解の学び方(方法知)を身に付けさせる。「内容知」ではなく、「方法知」の指導を心掛けることで、根拠を本文から探すなどの文章読解力や、自らの学習状況を客観的に振り返る力の習得につなげる。 ・読んで分かったことや、要点を捉える際に、対話を通じて解決できるようにすることで、苦手意識を感じている子にも意欲的に参加できるように促す。また、文章を読んでどのように考えたか説明させたり、どうするかもっと良い要約文が書けるか尋ねたりすることで、より深い思考を促す。 ・家庭学習において繰り返し漢字練習に取り組みせる。また、スモールステップで定期的に漢字テストを実施し、自分の実力を振り返り(セルフモニタリング)、改善していくこと(セルフコントロール)ができる機会を多く取るようにする。 ・自分の考えや授業後の振り返りをノート等を書く機会を多く設ける。また、自分の考えや読み取った内容を限られた文字数や条件に応じて簡潔に文章表現する力を養っていくために、朝学習「10チャレ」を継続的に行う。
社会	<p>○資料を見て情報を読み取り、自分の考えを発表することができない児童が多数見られる。動画等、近年のICT教材では、資料の提示と同時にそれに伴う解説がなされることが原因の一つと考えられる。そのため、資料を関連付けていくことができていない。</p> <p>○都道府県名を漢字で書くことができるが、各都道府県の位置や特色を把握している児童は少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図や写真・表の意味や、それらから何が読み取れるのかに気付くのが難しい児童には、一つ一つ読み取る視点を提示し気付けるように支援したり、グループで話し合いの時間を設け、相手の意見を聞いて考えを深める活動などを積極的に取り入れていく。動画を効果的に活用しつつも、教科書の資料の読み取りもしっかりと行っていく。 ・定期的に47都道府県の名称や位置を確認するプリントに取り組み、理解の定着を図る。各都道府県に焦点を当てて、調べる活動を取り入れる。
算数	<p>○3年生の3学期に行った標準学力調査では、AB層の児童が約60%、CD層が約40%のため、学力の差が大きい。特にCD層の児童は基礎的な四則計算につまずきが見られる。</p> <p>○本校の昨年度の学力調査では、基準量・比較量・割合の問題に課題がある。3年生の3学期に行った標準学力調査では、「数と計算」の単元が全国平均に対して-7ポイント低い結果となった。問題文から、基準量・比較量・割合を捉えることが難しい児童が約40%いる。</p> <p>○3年生の3学期に行った標準学力調査では、全国平均と比較すると、算数の学習を活用する問題は-3ポイント、記述して答える問題は-8ポイント下回る結果となった。記述問題においては、正答率が約30%で、自分の考えを説明することに難しさを感じている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別のクラス分けで授業を行う中で、児童の実態に合わせた計算ドリル、計算プリントを活用する。朝学習の時間に、四則計算の内容を繰り返し取り組ませることで、基礎的・基本的な計算力の定着を図る。 ・数直線を活用して問題を解く方法を継続して指導し、基準量・比較量・割合の関係の理解を確実なものとする。また繰り返りのある足し算と引き算、かけ算と割り算の筆算に苦手意識があるため、学年で手順や書き方の指導を統一して正確に解く力を高める。 ・教科書の流れに沿い、「問題把握」「自力解決」「比較・検討」「学習感想・振り返り」で授業を展開する。「自力解決」「比較・検討」「学習感想・振り返り」の時間は、自分の考えを文章で書いた後に、お互いに発表し合う時間を確保して、説明する力を高める。
理科	<p>○実物や現象に出会った時に、感情的な視点で興味をもつ児童は多くいるが、科学的視点で、知的な関心をもつ児童は少ない。</p> <p>○自分の経験や既習事項を根拠に、考えを発表・説明できる児童がいる。その一方で、体験や経験が少なく、推察することが難しい児童もいる。</p> <p>○実物や実験で起きた現象を踏まえて観察記録を書かず、思い込みで書いてしまい、正しく記録できない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時に体験を伴う活動を多く設定し、児童の興味・関心を高める。また、日常的に生き物や自然事象について、「なぜそうなのか。」と、概念的発問で問い返しをすることで、より深い思考を促す。 ・体験を伴う観察や実験の時間を確実に確保して、結果を踏まえて考察をする場面を設定する。その際に自身の経験を根拠とするようにする。 ・観察する視点や比較の対象を提示するとともに、参考になる観察カードを紹介したり、カードに教師が助言を記入したりする等の指導を行い、科学的な観点で観察させる。 ・「授業力スタンダードver.4」に基づいた授業展開をする。問題把握、予想仮説の設定、観察・実験、結果の整理、考察等、それぞれの段階で何が分かったのか、どのように整理できたのか等を確認しながら指導をする。
音楽	<p>○音符についての概念が乏しく、拍にのって正しいリズムを打つことが難しい。</p> <p>○音楽を漠然と聴いてしまい、感想を記述することが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音符を言語化して（四分音符はタンや「パン」、八分音符はタタ、「水」）技術を習得し、クラス全員で音楽に合わせてリズムを打つ楽しさを共有できるように指導する。 ・音楽を以下の二点について具体的に聴くように指導する。1、感じたこと（楽しい、悲しい、元気）2、聴き取ったこと（速さ、強弱、リズム）
図画工作	<p>○豊かで面白い発想をする児童が多いが、表現技術の不熟さから、描いたものが何かが伝わりにくい児童が2割程度見られる。</p> <p>○昨年度使用した金づちやのこぎりの使い方について、徹底できていない。</p> <p>○初めて使う彫刻刀について、ケガの心配がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを形にすることができるよう、描画材の掲示資料を活用したり、実際に小さなサイズの紙などを使って「お試し」をさせたりする。 ・一斉指導で実演し、昨年度の復習をする。木材の固定の仕方や固定場所、切っている時の、のこぎりの傾きや自分の体や顔の位置など、繰り返し指導を行う。 ・初めて使う彫刻刀について、教師が実演するところをモニターで見せるとともに、状況に応じて担任と一緒に、複数で机間指導を行うことで、安全に十分に気を付けて指導する。
体育	<p>○昨年度の体力テストでは、「50メートル走」と「ソフトボール投げ」の2種目で全国平均を下回った。なお、「50メートル走」については、東京都の平均も下回った。いずれの種目も得意な子と苦手な子の個人差が大きい。</p> <p>○今年度の体力テストの暫定値では、「反復横跳び」の値が微減した。敏捷性の向上が課題である。</p> <p>○単元や内容によって技能の差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備や、活動内容の伝達等にかかる時間をできる限り短縮し、体育の授業中における児童の運動量を増やす。スモールステップの授業を行うことに加え、運動が得意な児童が苦手な児童にアドバイスをするような場を意図的に設定していく。体育以外の休み時間には、外遊びをするように声を掛ける。 ・敏捷性について、重心移動を素速く行う力の向上を目指すために、授業の初めにコーディネーショントレーニングを取り入れ、体の身のこなしを上達させる。 ・ICTを活用して課題解決のヒントを与えたり、友達同士でつななどを伝え合ったりすることで、苦手な児童も意欲的に課題解決に取り組めるようにする。
道徳	<p>○教材の登場人物を自分自身と重ねて考える児童が多く、心情を想像しながら自分の考えを伝えることができる。</p> <p>○自分自身の生活と学んだ内容を関連付けて、活かしていこうとする児童は少ない。道徳の学習で学んだことを、自分事として捉え、実生活に反映させていくことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心の弱さと、より良い生き方をしたいと願う気持ちの両方を考えることを通して、道徳的な価値の理解を深める。 ・自分の生活を振り返って考える時間の充実を図る。「過去」「現在」「未来」の時間軸で、道徳の時間に学んだ内容と自分の生活を関連させて考えを深め、「よりよく生きたい。」と思う気持ちを高める。
外国語活動	<p>○外国語を使った表現活動に関して、積極的に挙手・発言する児童と、そうではない児童の二極化が見られる。</p> <p>○ゲームやクイズなどの活動を行う際、外国語で表現する意識に欠け、活動のみを楽しむ様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語で表現する楽しさを実感させるために、チャンツ・動作化での表現・歌などを取り入れて、自信がない子でも楽しく参加できる授業を実践する。 ・コミュニケーションの場面では、英語でのリアクション表現を教員・児童ともに積極的に取り入れることで、「相手に伝わる安心感」を感じさせ、英語表現に対する不安感を取り除く。
市民科(総合)	<p>○市民科での学習課題を正しく捉え、必要な情報の取捨選択をすることが難しい児童が多い。結果、資料の内容を丸写しする児童がいる。自己の課題に応じた情報を選択させ、調べ学習に取り組む力を身に付けさせることが課題である。</p> <p>○社会科学習と関連させてカリキュラムマネジメントを行っている。しかし、体験的な活動の回数が少なく、調べ学習が本やインターネットに限られてしまうため、理解が浅い児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に合わせた資料を、クラス全体で分析する時間を確保する。資料から分かることは何か、資料提供者が一番伝えたいことを中心に読み取りを行う。その後、自分が考えたことや新たに生まれた疑問やもっと知りたいことを整理して、理解を深めていく。 ・児童が設定した課題に合わせて、家庭の協力を依頼したり、ゲストティーチャーを活用したりして体験しながら学ぶ機会を設ける。体験学習後は、学んだことを発表する時間を確保することで、更に追及していく意欲を高める。
特別活動	<p>○学級会を通して学級への帰属意識を高めるために話し合い活動をしているが、自分の考えとその理由を積極的に発表できない児童が一定数見られる。</p> <p>○学級力スタンダードを基にクラスの良いところを伸ばす話し合い、課題点を解決するための話し合いを行っているが、話し合いで出た内容を継続的に活動に移すことはできていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会においては、発表できた児童のネームプレートを貼ったり、意見を板書したりして積極的な発言を促す。話し合い活動を始める前に学級会ノートを活用し、自分の考えと理由を事前に記入させ、児童がすすんで発表できるように指導する。 ・学級生活をよりよくするために、学級力スタンダードの結果を活用し、定期的に振り返りを行うことで、学級の課題を再確認を行い、児童の課題解決に向けた具体的な取組を提案し、実行していく。